



近藤 魁人議員
(匠る風)



本市の財政戦略について

匠瑳市の財政健全性を判断する際、どの指標を重視しているか。

問 「財政課長」 財政の健全性は、実質公債費比率や将来負担比率などで評価しており、いずれも国の基準を大きく下回っており、健全な運営がなされていると考える。

令和5年度末の財政調整基金残高は約27億6,600万円で、前年から減少しているものの、適正な水準が維持されているが、経常収支比率は97・1%に上昇しているため、経常収支比率の改善を重視していく。

ふるさと納税について

自主財源の確保が今後重要になると思うが、具体的な取組方針は。

問 「財政課長」 ふるさと納税の推進や公共施設へのネーミングライツ付与等を進めることで、自主財源を確保する方針である。

問 匠瑳市のふるさと納税の現状と、返礼品の内容は。

答 「市長」 令和5年度のふるさと納税寄附額は2,083万9,000円。

答 「企画課長」 令和6年4月1日時点で、ふるさと納税の返礼品は137品目に上り、主にお米や野菜、卵などの農産物が多く含まれている。

しかし、返礼品の少なさやPR不足が課題なので、返礼品の充実とPR強化に取り組んでいきたい。

問 ふるさと納税の目標数値は設定されているか。

答 「企画課長」 今年度は3,000万円を目標として取り組んでいる。

問 リピーター等を増やすためにどのような工夫をしているのか。

答 「企画課長」 寄附者には礼状を送付し、引き続きの寄附をお願いしている。また、返礼品の選択肢を広げるため、積極的に新たな返礼品の開拓に取り組んでいる。

問 ふるさと納税による財源を、少子化対策や子育て支援に活用するべきでは。

答 「市長」 ふるさと納税の財源は、産業振興や福祉の充実など選択していた方法を取っている。今後議員からの意見等を踏まえ、有効活用できる方法を研究していきたい。

市民病院について

問 令和5年度の赤字額は1億8,000万円に上っているが、今後の経営改善に向けた対応策はなにか。

答 「市民病院事務局長」 大幅な赤字を受け、令和6年度は特に収益改善に重点を置き、入院患者と外来患者の確保に努めている。



椎名 勝英議員
(日本共産党)



議会決議から6年、学校給食費の一部助成が実現？

問 平成30年12月の学校給食費無償化の議会決議に対して、市長は「大変重く受け止めている」としているが、6年以上経過しても、完全無償化は実現していない。

近隣では完全無償化、一部助成を実施している。少子化対策として、学校給食費の完全無償化を求めたい。

問 学校給食費の食材について、有機米等の購入について聞きたい。

答 「市長」 現状では、財源確保の面から完全無償化は困難だが、来年度からの一部助成等について検討したい。

飼料米等の作付面積は32%減、来年の飼料米確保に畜産農家不安

問 加工米等の栽培面積等について伺う。

答 「農林水産課長」 令和6年9月現在の本市の水稲作付面積2、

983haで、このうち加工用米293ha、飼料用米299ha、ホイルクロップサイレージ9ha、134名が作付け、面積は昨年度から32%減である。

問 物価高騰により飼料米等の生産農家は大変厳しい状況になる。来年度に向けた取組の方針は。

答 「農林水産課長」 「経営の平準化を図る」という視点で、市では飼料用米の取組を推進してきた。

来年度の取組は、個々の経営形態に合わせて検討いただくため、生産者に可能な限りの情報提供を図りたい。

正職員より多い会計年度任用職員

問 匠瑳市では、正職員と変わらない仕事の会計年度任用職員もあり、行政事務の運営には不可欠と思われる。総務課長は、会計年度任用職員の仕事の内容は正職員より軽微な仕事というが、どのような仕事か。

答 「総務課長」 令和6年4月1日時点で職員数は298人で、13人の常勤職員が不足している。

また、4月1日時点の会計年度任用職員はフルタイムが85人、パートタイムが255人で、9月1日時点では、フルタイムが87人で2人増、パートタイムが251人で4人減となっており、仕事の内容は、単純補助業務や定型的な業務となっている。